

臨床美術学会 第 13 回大会 2022

開催要項

大会テーマ

アート思考×臨床美術

～いま，社会に求められるアートの役割～

2022 年 11 月 19 日（土）・20 日（日）



臨床美術学会

The Society for Clinical Art

臨床美術学会 第 13 回大会 2022

大会テーマ

アート思考×臨床美術

～いま，社会に求められるアートの役割～

日時 11 月 19 日（土） 11：45～15：45 オンライン(Zoom)開催

※16：00～17：00 交流会（任意参加）

11 月 20 日（日） 10：00～12：20 オンライン(Zoom)開催

主催 臨床美術学会

共催 日本臨床美術協会 ／ 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修

大会長挨拶

木戸 修

(彫刻家 臨床美術学会長 日本臨床美術協会理事長 東京芸術大学名誉教授)

2019 年末に中国武漢市から発生したとされる新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に蔓延し、変異を繰り返して現在に至っています。当初は罹患するとすべての人が重大な病状に陥る恐るべき感染症という認識でしたがワクチンが開発され、また検査方法や治療法も確立されてきたようで、多少は落ち着いて対処できる状態に変わってきているようです。平穏な日常生活を一日も早く取り戻せることを待ち望んでいます。しかし未だ感染の蔓延状況は楽観できる事態ではありません。若年層への急速な感染拡大や新たな変異株の出現、長引く後遺症など問題も多く、先行き不透明な日常は今しばらく続くことを残念ながら覚悟しなければならないようです。また東欧ではロシアのウクライナ侵攻による紛争が勃発し世界中に大きな波紋を広げ、世界情勢の不安定化は経済活動の停滞や物価高騰など社会経済のみならず個人の生活にも深刻な影響を与えています。世界で起きる出来事は個人の生活や社会活動にも否応なく大きな影響を与えるということに改めて気づかされます。臨床美術の活動も例外ではなく、大きな制約を受ける状況は今しばらく続くでしょう。このような困難な状況ではありますが今まで以上に協力の輪を広げて日々の活動をたゆまなく継続してゆきたいと思います。

しかし対面で成り立っていた社会活動の一部がオンラインでできることに気づいたことは、混迷した状況から抜け出す大きな力となりました。コンピュータの情報処理能力の高まりとともに我々の日常生活、社会活動、経済活動がよりコンピュータ依存の度合いを高めるであろうことは想像されていましたが、それは来るべき近未来の生活スタイルとと思っていましたが、新型コロナウイルス感染で一気に加速し現実の生活スタイルになったことは思いもよらないことでした。これらの技術を上手に使うことによって臨床美術の活動もより一層広げてゆくことができると新たな可能性も見えてきました。その為にはより一層の研究も不可欠でしょう。すでに臨床美術士どうしの情報交換や知識の共有などに活用されているのは、皆さんの努力のおかげと思っています。混迷の時代であるからこそ多くの人々に臨床美術の活動が必要とされますし、それにこたえる為にも臨床美術活動の充実や社会発信の進展など更に進めて行きたいと考えます。

今年度の大会テーマは、「アート思考×臨床美術 ～いま、社会に求められるアートの役割～」です。基調講演に末永幸歩さん（美術教育者 東京学芸大学個人研究員「13 歳のアート思考」（ダイヤモンド社）著者）を招聘し、アート思考とは何かの問いかけから始まり、現代美術の見方や多角的に思考することが大事であり、問いを産み出す力や自分なりの答

えを探す力の重要性などをお話しいたします。アート思考なるものと臨床美術が対峙した時どのような作用が生まれるのか、そこから臨床美術に有用な新たな示唆を得ることができるのか、かけ合わせることで新たな可能性が生まれるのではないかという期待を込めてテーマを「アート思考×臨床美術」としました。

シンポジウムの演題は「今、求められる臨床美術の社会的役割」で、パネラーが活動してきたそれぞれの立場から話題を提供し、その後自由に討議を展開いたします。臨床美術学会が現場の実践から得てきた大きな成果をふまえて、その意義や価値を社会へ広く発信し、より深く認知されるための方策や可能性などを見出したいと思います。

シンポジウムの座長は 和田明人(臨床美術学会理事 東京家政大学教授)、パネラーは丸本真代(臨床美術士 造形作家 Ms'palette 主宰) 大野木啓人(臨床美術学会理事 京都芸術大学 常任理事 教授) 保坂遊(臨床美術士 彫刻家 東京家政大学教授)の方々です。その後は学会員の研究発表へと続きます。研究発表では様々な活動における活発な研究や報告が披露され、楽しみにしています。

今年度の臨床美術学会の大会も実り多き集まりになることを期待し、臨床美術の活動が更に充実することを願っています。

臨床美術学会 第13回大会 2022 ご案内

大会テーマ

アート思考×臨床美術 ～いま，社会に求められるアートの役割～

開催日程 2022年11月19日（土）11：45～15：45

※16：00～17：00 交流会（任意参加）

2022年11月20日（日）10：00～12：20

開催方法 オンライン（Zoom）開催

主 催 臨床美術学会

共 催 日本臨床美術協会 / 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修（彫刻家 臨床美術学会長 日本臨床美術協会理事長 東京芸術大学名誉教授）

11月19日（土）タイムテーブル

時 間	内 容
11:15～	受付（Zoom）
11:45～12:00	開会式
12:00～13:30	基調講演 演 題「自分なりのものの見方で探究するアート思考の可能性」 講 師 末永 幸歩 （美術教育者 東京学芸大学個人研究員 「13歳からのアート思考」（ダイヤモンド社）著者）
13:30～13:45	休憩
13:45～15:45	シンポジウム「今，求められる臨床美術の社会的役割」 座 長 和田 明人 （臨床美術学会理事・東京家政大学教授） シンポジスト 大野木 啓人 （臨床美術学会理事 京都芸術大学 常務理事 教授） 保坂 遊 （臨床美術士 彫刻家 東京家政大学教授） 丸本 真代 （臨床美術士 造形作家 Ms'palette 主宰）
16:00～17:00	交流会（任意参加）

11月20日（日）タイムテーブル

時 間	内 容
9:30～	受付 （Zoom）
10:00～12:00	研究発表
12:00～12:10	休憩
12:10～12:20	閉会式

※プログラムは変更になる可能性があります。

※インターネット環境を使い、オンライン（Zoom）での開催となります。

詳細は12ページをご参照ください。

11月19日（土） 12:00～13:30

基調講演

「自分なりのものの見方で探究するアート思考の可能性」

講師 末永 幸歩

（美術教育者 東京学芸大学個人研究員
「13歳からのアート思考」（ダイヤモンド社）著者）

アート思考とは、①自分なりのものの見方で世界をみつめ ②自分だけの答えをつくり ③それによって新たな問いを生み出すことであり、アーティストが目に見える作品をつくりだすまでに行っている思考過程にみられるものです。

現代社会において、アート、アート思考の可能性が再認識されています。

その背景には、高度情報化や、とくにテクノロジー分野における技術革新、価値観の多様化などにより、変化の速度が速く、変化の幅も大きいVUCA（ブーカ）世界と称される社会の状況があります。

変化の大きい社会においては、従来のように他者から与えられる課題に対し、只一つの正解を見つけ出す力のみならず、社会の変化に振り回されることのない自分のものの見方や考え方を軸に、今はない答えを新たに創り出してゆく必要があります。

未来を担う子どもたちへの教育について、また、大人が子どもから学ぶことについて、アートの切り口からお話しします。



* 講演はアート作品を「自分なりのものの見方」で鑑賞し、「自分だけの答え」をつくるワークショップを含みます。ワークショップにあたり、以下の点にご留意ください。

・ZOOMのチャット機能を使用できる環境でのご参加をお願いいたします。

・鑑賞作品の画像を大きな画面で見られるよう、スマートフォンではなく、タブレットやパソコンでのご参加をお勧めします。

・紙（メモ帳やコピー用紙など）と筆記用具（文字を書くために使用）のご用意をお願いいたします。

〈プロフィール〉

末永 幸歩（すえなが ゆきほ） 美術教育者

武蔵野美術大学造形学部卒業

東京学芸大学大学院教育学研究科（美術教育）修了



東京学芸大学個人研究員、九州大学芸術工学府講師、浦和大学こども学部講師

「絵を上手に描く」「美術史を丸暗記する」といった従来の美術の授業に疑問を感じ、アートを通して、自分なりのものの見方で「自分だけの答え」をつくることに力点を置いた探究型の授業を中学校や高等学校で実践してきた経験を持つ。

現在は、全国の教育機関や企業等で年間100回を超えるワークショップや講演を行っている。

日経STEAMアドバイザー、Eテレ「ノーゾーのレッツ!ひらめき工房」監修、ニュース共有サービス「NewsPicks」プロピッカーなど兼任。様々な企業や団体とアートや教育に関する事業共創に力を注いでいる。

著書に17万部を超えるベストセラーとなった『13歳からのアート思考』（ダイヤモンド社）など。



11月19日（土） 13:45～15:45

シンポジウム

テーマ「今、求められる臨床美術の社会的役割」

座長 和田 明人 （臨床美術学会理事 東京家政大学教授）

シンポジスト 大野木 啓人 （臨床美術学会理事 京都芸術大学 常務理事 教授）

保坂 遊 （臨床美術士 彫刻家 東京家政大学教授）

丸本 真代 （臨床美術士 造形作家 Ms'palette 主宰）

趣旨

“臨床”という言葉は「人の生（命 Life）への向き合い」とも解されようが、臨床美術は美術表現の技法を用いて、まさに「人の生（命 Life）に向き合い」続ける営みであろう。臨床美術では、誰もが持つ感性や内在的な創造力を引き出すために、アートプログラムによって方向づけされた枠組みが予め設定されているが、その実践過程においては優れた臨床美術の実践家は制作者の個性・自発性・主体性を尊重し、内的世界からの表現を丸ごと受けとめ、行為・思い・情動の表出に対しても共感的に理解し、一人ひとりのありようを丁寧に言葉で認め応答する。そして、制作者と臨床美術士との関係性で繰り広げられた結実として、唯一無二の作品が生まれる。

ところで、臨床美術の実践では、人と人との関係性において決して規定的でも支配的でもなく、人（制作者）が本来持つ力を人（臨床美術士）が引き出すという、エンパワメント・アプローチがその中軸にある。エンパワメントは、アメリカの公民権運動に端を発した方法概念である。社会的に抑圧されていた力をどのようにして開花させるかという視点から発展し、なんらかの問題を抱える人、あるいはたとえ無力の状態に見える人であっても潜在的に有する内的な力を引き出し、強化された力（ストレングス）に変えていくことによって自ら問題の解決が行えるように展開する支援技法であるが、現在では看護・福祉・心理・教育などの様々な分野や文脈で使用されている概念でもある。

現在の臨床美術には、エンパワメント・アプローチを美術作品の制作過程で具現化していくアートプログラムが、実に豊富にある。しかしながら、その効能・適用範囲や、成果・根拠などが曖昧であるがゆえに、教育・医療・福祉などへの汎用化や実用化が期待されながらも、可能性の論議で立ち止まっている感が否めない。

自己決定を促し自己実現が図られることで人はその存在意義や価値を自分でも認められるようになるであろうが、それは他律的でも受動的でもない主体的な自己表現により自認できるようになっていくと考える。本来自分に備わっていても埋もれてしまっている力を発揮していくこと、あるいは失っている状態から取り戻していくこと、そうしたエンパワメント・アプローチによるストレングスを個人個人が生み出し、それが繋がりを帯びていくこと、それこそが現代社会における教育・福祉・医療などの臨床の場において必要なことではあるまいか。

現代社会において、埋もれていた生（命 Life）や、抑圧されていた生（命 Life）が、本来備わるべき力を発揮して躍動する生（命 Life）へと転換する姿をさらに世に顕示するには、課題はなにか。臨床美術の役割を再考しつつ、それを実際に果たしえる近未来の地平をも本シンポジウムで切り拓いてみたい。

11月19日（土） 16:00～17:00

交流会（任意参加）

本大会では、終了後に参加者間交流を目的とした交流会を開催します。

Zoom のブレイクアウトセッション機能を用いて小グループでの交流や情報交換をしていただき、臨床美術に関わる様々な話題についてコミュニケーションを図って頂く機会としていただければと思います。

開催方法 オンライン（Zoom）開催

11月20日（日） 10:00～12:00

研究発表（オンライン形式）

本大会では、本学会の趣旨に沿った臨床美術および周辺領域に関する内容（理論研究、実践研究、調査等）についての研究発表（オンライン形式）を一般募集します。

臨床美術学会設立以来、学会員や大会参加者も増加し、研究や実践フィールドも多岐に亘ってきています。本学会では、コロナ禍による感染予防のため、オンライン形式による研究発表を開始し、より多くの学会員、参加者の研究発表・交流の場を設けております。

研究発表は、発表者が学術的な研究内容をパワーポイント等のプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、発表します。

指定された時間の間、発表者は、オンライン画面共有にて研究内容を発表し、座長や参加者と直接的な質疑応答を行い、学術的な見識を深めたり、問題を共有化したり、参加者間の研鑽の機会とします。

また、発表者は研究発表論文概要へ論文掲載をしていただきます。

研究発表の申し込み方法については、12 ページをご覧ください。

研究発表① 10:00～11:00

研究発表② 11:00～12:00

※研究発表申し込み題数により、分科会方式となる場合がございます。

参加費：無料

臨床美術学会 第 13 回大会 2022 参加申し込みのご案内

1. 大会参加申し込み方法

(1) 大会参加費（税込）

申込区分	参加費（事前登録のみ）
臨床美術学会会員	5,500 円
非会員	7,700 円
学生	3,300 円

※日本臨床美術協会のみにご所属の場合は、非会員の申込区分になります。

参加申し込みの際、臨床美術学会の会員登録の有無を今一度ご確認ください。

(2) 各種参加・申込費

- ・研究発表申込（研究発表資料製作費として）：2,200 円（税込）
- ・交流会参加費（会員・非会員・学生共通）：無料

(3) 申し込み方法

事前参加登録はオンラインで受付いたします。

臨床美術学会ホームページ「学術大会・イベント情報」ページ内にある参加登録ページにアクセスし、登録画面の必要事項をご記入の上、ご登録ください。

後日、事務局より「参加登録受付」メールを返信いたします。

※メールが届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

事前参加登録申込締切：2022 年 10 月 28 日（金）

注）本大会では、当日参加受付は行いません。

参加をご希望の方は、必ず期限までに事前参加登録をお願いいたします。

(4) お支払方法

参加登録申込後、ご登録いただきました E-mail アドレスに「参加登録受付メール」が届きます。お支払内容・振込先等をご案内しておりますので、ご確認ください。

各種参加費入金締切：2022 年 11 月 4 日（金）

(5) 参加申し込み内容の変更・キャンセルについて

大会参加費・研究発表参加費（研究発表資料製作費）は返金いたしませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。

また、事前参加登録申込後、各種参加費入金締切日までにお支払いがない場合は、キャンセル扱いとなりますので、あらかじめご了承ください。

(6) Zoom の招待 URL および研究発表概要送付について

入金締切後、ご入金を確認できた方に Zoom 招待 URL、および資料等をメールにて配信いたします。

メール配信日：11 月 11 日（金）

(7) オンラインでの参加方法について

- ・有線 LAN または Wi-Fi などインターネット接続環境が必要です。
- ・パソコンまたはタブレットなどの機器をご準備ください。
- ・事前に Zoom アプリをパソコンまたはタブレットにインストールしてください。
- ・研究発表者は、カメラ、マイクが必要です。

2. 研究発表（オンライン形式）申し込み方法

(1) 申し込み方法

研究発表申込はオンラインでの大会参加申込時にご選択して頂く形で受付いたします。登録画面の参加オプション「研究発表タイトル・要旨」をご記入の上、登録してください。

研究発表申込締切：~~2022 年 8 月 31 日（水）~~

2022 年 9 月 20 日（火） ※申込締切が延長となりました。

(2) 研究発表受理確認

お申し込みいただいた発表内容は、大会本部にて確認させていただきます。「発表受理」となりましたら、研究発表代表者の E-mail アドレスに発表受理のメールが届きます。発表受理の E-mail が 9 月 12 日（月）までに未着の際は事務局までお問い合わせください。

(3) 研究発表論文概要原稿送付

研究発表論文概要原稿は下記 E-mail アドレスに PDF 形式のファイルを添付しお送り

ください。研究発表論文概要に関しては、誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行いません。完全原稿としてそのまま掲載されますので、送信者の責任において確認してください。

また、送付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

作成時の詳細につきましては「研究発表論文概要原稿作成／送付要領」をご高覧下さい。

受付 E-mail アドレス：gakkai@arttherapy.gr.jp

研究発表論文概要原稿 送付締切：2022 年 10 月 11 日（火） 15:00（必着）

3. 研究発表（オンライン形式）について

●オンライン形式による研究発表とは

研究発表内容をパワーポイントなどのプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、オンライン上にて、画面共有で資料を提示しながら発表する発表形式です。

(1) 研究発表資格要件

研究発表代表者は、原則として以下のいずれかに該当する者とします。

①臨床美術学会会員

②日本臨床美術協会会員

③その他、臨床美術実践者等

*②、③の方が発表代表者となる場合は、必ず本学会会員が連名発表者で加わるのが条件となります。

(2) 研究発表に関する制限

発表代表者となる場合、1 人 1 発表に限ります。連名発表者となる場合は、複数の発表でも構いません。発表する研究は未発表のものに限ります。

(3) 研究発表申込とその受理

研究発表で発表する代表者は、指定された期日までに「大会事前参加登録申込」「研究発表申込」「大会参加費および研究発表参加費の納入」を行なってください。なお、前述のいずれかに遅れや不備等があった場合、研究発表申込が受理されないことがあります。

ます。

(4) 研究発表論文概要への原稿の提出

発表代表者は、指定された期日までに研究発表論文概要の原稿を提出してください。

原稿の作成及び送付方法については、16 ページからの「**研究発表論文概要原稿作成／送付要領**」に従ってください。

(5) 研究発表方法

大会当日、研究発表代表者は、指定された発表時間に座長の指示に従って、Zoom にて画面共有でご発表ください。発表者の持ち時間は1題につき、発表 12 分/質疑応答 3 分となります（発表説明責任時間）。本大会では発表申し込み題数によって、研究発表① 10:00～11:00／研究発表② 11:00～12:00 に振り分けます。詳細は申込後、追ってご連絡いたします。

原則として、連名発表者も討議に参加するようにしてください。

(6) 研究発表データ作成について

研究発表データは、「研究発表論文原稿作成／送付要領」の内容に照らし合わせて、パワーポイントほか類似するプレゼンテーションツールで作成してください。映像、動画なども用いて構いません。参加者へ研究発表内容がより伝わるよう創意工夫をしてください。

研究発表は発表者自身で PC 等を操作して行ってください。

事前に必ず Zoom ミーティングにて画面共有が可能か、ご自身で動作確認をしてください。

(7) 研究発表の正式認定について

研究発表は、「①研究発表論文概要への原稿の掲載」、「②オンラインでの発表」、「③質疑応答への参加」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。「発表説明責任時間」の変更はできません。

(8) 研究発表申込から研究発表までの流れ

研究発表申し込み締切： 8月31日（水） （学会 HP より） 9 月 20 日（火） ※申込締切が延長になりました。
↓
研究発表受理確認 メール発信：随時
↓
研究発表論文概要 原稿送付締切：10 月 11 日（火） 15:00 （メール提出）
↓
各種参加費納入締切：11 月 4 日（金）
↓
研究発表論文概要 配信（当日参加 URL 配信）： 11 月 11 日（金）発表順を確認
↓
臨床美術学会 第 13 回大会 2022 研究発表：11 月 20 日（日） 10:00～11:00 研究発表① 11:00～12:00 研究発表② 上記のうち、発表 12 分／質疑応答 3 分

研究発表論文概要 原稿作成／送付要領

研究発表論文概要原稿は、WORD 等の文書作成ソフトで作成(A4、1 枚に印刷されることを想定して作成)し、PDF ファイル形式にて、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までお送りください。

ご希望の方には、基本レイアウトに沿ったフォーマットデータをお送りします。研究発表論文概要原稿を送信する際には、PDF ファイル形式で作成しお送りください。論文は、送信された PDF ファイルをそのまま使用して作成します。原稿ファイルを送信する前に必ず印刷をおこない、文字化けや文字つぶれ等がないことをご確認ください。なお、登録した原稿を修正(差し替えを含む)することは一切できませんので、ご注意ください。原稿全般に関してご不明な点があれば、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までご連絡下さい。

(1) 用紙

- ・ 1 題の研究発表につき、A4 サイズ 1 ページに限る。
- ・ **(必ず 1 ページに収めてください)**
- ・ 横書きとして、背景は無地とする。
- ・ 上下左右各 20mm の余白をとる。

(2) 原稿の作成

- ・ ページ上部に、発表タイトル(副題)・発表者氏名(所属)を大きく示す。
- ・ 発表タイトルと発表者氏名(所属)の下からは 2 段組で本文を書く。
- ・ 図表は本文内に掲載し、図表が要旨集原稿の 40%以下になるようにする。

(3)「発表タイトル・発表者氏名(所属)」について

A.発表タイトル

- ・ ゴシック系フォント・中央揃え・要旨集原稿の中で、最も大きいフォントサイズ(12～14pt)とする。
- ・ 発表申込み時の研究発表タイトル(発表タイトルにはサブタイトルも含む)を記載する。
- ・ サブタイトルは原則として改行して記載しフォントサイズは発表タイトルのサイズより小さくする。

B.発表者氏名(所属)

- ・ 明朝系フォント・中央揃え・フォントサイズ(12pt)とする。

- ・連名発表者がいる場合、筆頭発表者の氏名の前に○印をつける。
- ・所属は氏名に続けてカッコ内に記載する。

(4) 本文について

- ・発表タイトル・発表者氏名(所属)下を1行あけ2段組で作成する。段組の間隔は約2文字分あける。
- ・明朝系フォント・左揃え・フォントサイズ(10～10.5pt)とする。
- ・見出しをゴシックや太字にするなどして読みやすくする。

(5) 図表について

- ・図表にはタイトルをつける。複数の場合は通し番号をつける。
- ・本文中の図表数に制限はない。ただし要旨集原稿に占める図表の面積は40%以下とする。
- ・印刷した際に見やすいものとする。

(6) 書式

- ・書式については作成要領を守っていることを前提として、細部については発表者の判断に任せる。ただし、読みやすさを最優先して作成すること。

(7) その他

- ・原稿は所属先の研究倫理規定・倫理指針等に従い作成すること。

特に次の3点には注意すること。

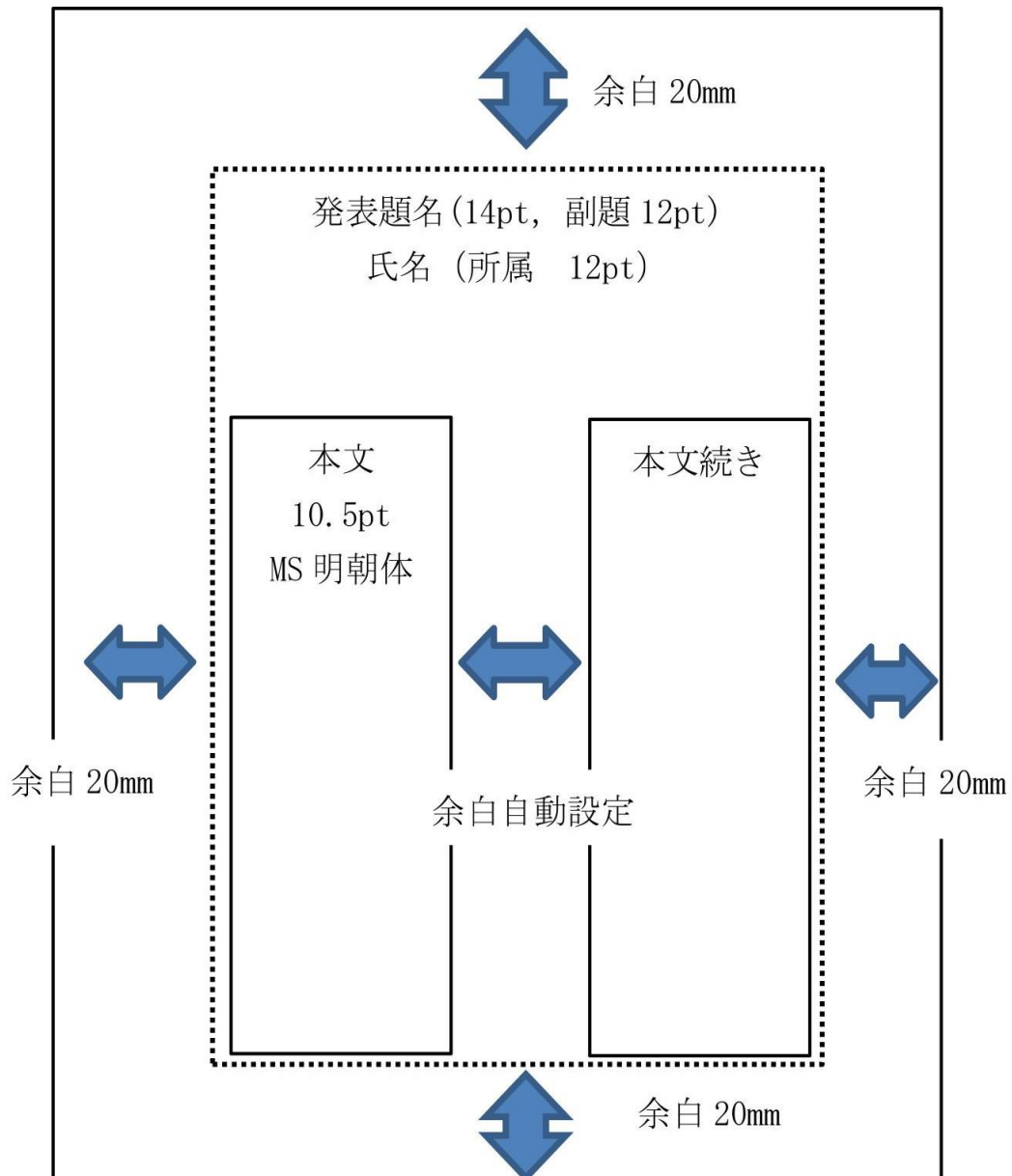
- 1 研究協力者がいる場合、事前に発表の承諾を取ること。
- 2 研究協力者の人権に十分配慮していること。
- 3 他の研究者などの文献から引用がある場合は出典を明記すること。

- ・原稿作成時、特に写真を用いる等の場合は、個人情報やプライバシーの保護に努め、予め発表について対象者の了承を得るか、個人が特定できないように表現には十分留意すること。

原稿作成レイアウト

下記の図に従って作成してください。規定外の手稿は受理できませんのでご了承ください。また、送付された手稿はそのまま印刷しますので、一度提出された手稿の修正、取り下げ及び返却はできませんので、提出の際は十分ご注意ください。

原稿作成レイアウト【図】 A4 1 ページ



【 お問い合わせ先 】

臨床美術学会事務局

〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂 1-9-3

Shonan Eminence 3F

電話番号：050-6861-7227

FAX 番号：050-3537-8633

E メール：gakkai@arttherapy.gr.jp